

一般質問

12月定例会において行われた一般質問について概要をお伝えいたします。

質問議員……………15名

※一般質問とは…

一般質問とは、市の行政全般にわたり、その執行状況や将来の方針などについて報告、説明を求め、疑問を質すものです。



北野唯道

Q 市長として、今回の台風による大規模な災害の発生にあたり市の対応についてどのように総括しているか

A 日本は地理的条件から地震や台風などの災害と向き合わざるを得ず今回の台風でもこれが如実に現れており市内で一日当たり過去最多となる368ミリの雨が降り被害をもたらした。市として今回の災害を教訓とし甚大な被害を防止し早急に回復を図ることを目的とした国土強靱化地域計画を策定していく。

問はずれとなっている。

Q 白河市における空き家の状況について

A 平成27年度に建築物またはこれに付随する工作物であって居住その他の使用がされていない状態であることを定義として実施した空き家実態調査において991件の空き家が確認されている。

Q 市内小中学校におけるいじめの発生状況について

A 今年度各学校から報告されたいじめの件数は小学校43件、中学校17件の合計60件である。内容は悪口や陰口が多く次いで仲





根本 建一

Q 「治水対策の見直しについて」

A この度の台風は百年に一度の雨量と言われているが、温暖化が進めばさらに大雨の発生数は増加することが懸念され、決壊した堤防等現状復帰の工事では、今後発生し得る大雨に対応できるか心配であるが、本市として今後の治水対策について伺う

外については、順次工事を進めていく。

Q 防災無線戸別受信機設置について

A 新たな防災システム導入にあたり、希望世帯には3千円で、70歳以上の一人世帯や75歳以上の高齢者世帯、また障害者、生活保護受給者などには無償貸与をする予定である。



〈戸別受信機〉

Q 被災農地及び農業施設復旧計画について

A 約二千か所の被災が認められた。国の査定を受ける箇所については終了後速やかに、それ



佐川 京子

Q ハザードマップの市民への周知について

A 現在作成中の防災マップは、避難所施設や土砂災害警戒区域、浸水想定区域、各種災害関連情報や注意事項を盛り込んだ冊子タイプである。配布に際しては町内会への説明機会を設けたり、広報紙やホームページで周知し、各家庭の防災に役立つよう啓発する。

Q 白三小の床改修について

A 建設から25年以上経過し経年劣化の状況なので学習環境改善のため改修協議を進めている。

Q 認知症対策について

A 認知症の理解促進に努め、認知症ケアパスを作成し情報の提供に努めている。

Q マイタウンの会議室は音が反響して聞こえづらいので天井を設置し改善して欲しい

A 会議室の環境向上対策を検討する。



Q 発達障害対応について

A 1人1人の教育的ニーズを把握し、持てる力を高めていけるよう支援の充実に努める。



室井伸一

Q 今回の台風19号で学校の体育館が避難所として開設されなかったことについて

A 今回の台風19号では、警報発令前に自主避難所として産業プラザほか3箇所を開設しその後、気象条件を見ながら、図書館や各行政センターやコマネス、中央体育館を順次開設した。今後は学校体育館を避難所として開設することを想定し、学校や教育委員会と連携し、スムーズな開設ができるよう努めていく。

Q 災害現場でのドローン活用について

A 人や車などの立ち入りが困難で危険が伴う災害現場で、被害状況などを迅速に把握することが難しいため、ドローンの活用は非常に有効な手段として注目



〈ドローン〉

されている。また、台風19号により土砂崩れ被害にあった八竜神地内についても、市内業者の協力のもと、ドローンによる空撮を行い災害状況把握の一助となった。このことから、災害現場のいち早い状況把握のためにもドローンを扱う業者と災害協定の締結を進めていく考えである。



荒井壽夫

Q 地域公共交通問題解決に向けて体制づくりとして、まちづくり・健康増進・環境負荷低減の統合的取組に向け、行政担当部門間の横断的プロジェクトチーム、そして地域公共交通活性化協議会への高齢者等交通弱者の代表を参加させてはどうか

A 公共交通は今やまちづくりを行う上で大きな要素と承知している。今後、全庁的に深い議論が必要になればプロジェクトチーム設置を検討する。高齢者等のニーズ把握のためバス・タクシー利用者対象のアンケートを検討する。

Q 公共交通不便地区のためNPO法人によるデマンドバス運行構想ができています。市の考えを伺う

A 運行計画の確認後、交通事業者、地域住民等と事前調整を経て運行条件が整えば活性化協議会との協議を進める。

Q 公共交通育成の市民意識醸成のために必要とされているモビリティ・マネジメントの現状を問う。城下町まち歩きモデルコースを提案する

A バス・タクシー運賃助成者へのアンケート等を行った。有効なまち歩きを今後検討する。





吉見 優一郎

Q 市内の小中学校の統廃合について市長の考えを伺う

A 児童生徒の教育条件の改善の観点から現在の学校数や児童生徒数のもとでどのような課題があるのか。また、小中一貫校や義務教育学校への移行なども含めて総合的に分析を行い、統合を検討するうえで、児童生徒の保護者の声を重視しつつ、地域住民や地域の学校支援組織と教育上の課題を共有し、十分な理解や協力を得ながら進めていくことが大切である。



Q 学校施設の大規模改修や小規模改修、修繕等を今後どのような計画で進めるのか

A その都度、危険性や緊急性、必要性などを考慮し修繕を行っている。現在学校施設長寿命化計画の策定を進めており、今後は本計画に基づき、適切な施設の維持管理に取り組んでいきたい。

Q 白河武道館の移設についてどのように考えているのか

A 公共施設等総合管理計画に基づき、安全性、利便性、他の施設との位置関係を含め総合的に方向性を考えたい。



水野谷 正則

Q 市長と語る「しらかわ未来フォーラム」について(市内中学校対象)

A 郷土の長い歴史と豊かな文化を受け継ぎ、将来につなげ、本市をさらに発展させるために、今後も未来の白河を担う「人づくり」に取り組んでいく。



Q スポーツ施設等の予約管理における改善策について

A 年間事業実施予定表を受託者(受付窓口)とメールやFAXで同時に情報を共有することで改善していく。



Q 台風19号による被災箇所への復旧方針について、災害復旧事業は元通りに戻すのが原則と聞いているが、今回以上の豪雨があればまた同じように被災する。河川等の被災箇所をどのような安全対策を講じ復旧するのか

A 災害復旧の基本方針をもとに被災箇所ごとに被災原因の究明に努め、周辺環境や現場状況に適した最良の復旧工法を検討し、災害査定後、早期復旧に向けて全力をあげて取り組んでいく。



大竹 功一

Q 文化交流館コミネス開館から丸3年が経過した。3年間の利用状況と今後の運営方針を伺う

A 比較のため利用者のか月平均数は28年度、8千472人、29年度1万760人、30年度1万346人となっている。今後の運営については、3年間の実績や市民ニーズを踏まえ、指定管理者と連携を図りながら事業展開と経営面でも安定的な運営に努めたい。



〈白河文化交流館コミネス〉

Q 台風19号における対応についてのどのような課題があると認識しているか。また今後の対応についてどのように考えているか伺う

A 課題については、正確な情報収集、迅速な市民への周知、避難誘導及び避難所の配置等について多くのご意見が寄せられ、課題があるものと考えている。今後については、防災マップの各家庭配布を行い、危険箇所及び避難所等の周知を図るとともに意識の高揚についても図っていく。また、防災行政無線システムを見直し、各家庭に設置できる装置の導入を行っていく考えである。



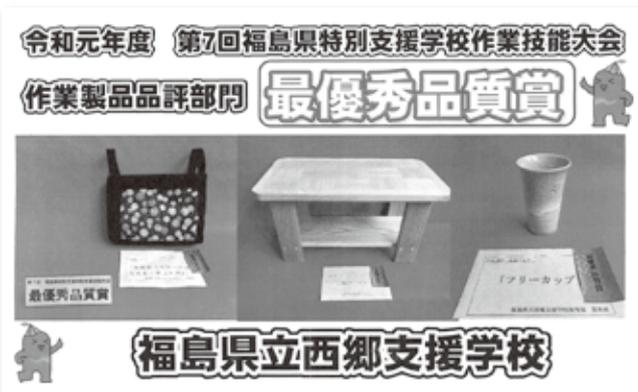
山口 耕治

Q まちづくりサポーター制度について、教育、福祉、文化スポーツなどあらゆる分野で市民の皆さんが仕事や趣味などを通じて得た知識、経験、技を活かせるように登録し、その力を市民のために発揮していただけるような制度の創設について市長の考えを伺う

A 知識や技能を有する方がサポーター制度に登録することで、人材という資源を掘り起こすとともに、市民が必要としているサービスに有効に対応できるものと考えている。市としては、あらゆる世代の市民がまちづくりに関わり、活動の幅を広げていただけるような仕組みづくりについて、さらに検討したい。

Q 西郷支援学校についての教育長としての認識について

A 市内の子どもたちが多く通う学校で、今後も支援していきたいし、ぜひ訪問させていただくとともに、子どもたちの作品も素晴らしいと聞いているので展示する場所の提供についても支援できるように検討していきたい。





大木 絵理

Q 台風19号豪雨災害における課題や反省をふまえ、避難所開設場所を間違えなく知らせるために今後どのような取り組みをしていくのか

A 新たな防災無線システムの導入や改訂版防災マップ、広報、回覧、ホームページ等に避難所開設場所の情報を得るための方法を記載し、避難時の混乱を未然に防ぐ。

Q 台風19号豪雨災害時におけるホームページについて、通行止め箇所等、ホームページが見づらいついという意見に対する今後の取り組みについて

A 通行止め箇所の記載方法は複数の位置を一つの地図上に表示する機能がなかったことが要因として考えられる。今後は表示方法の改善やSNSの活用をは

じめとした速い情報配信の方法を検討する。

Q 避難行動要支援者登録制度について

A 自ら避難することが困難な方が対象である。そのうち、同意された方の情報を警察、消防、社会福祉協議会、民生委員などと共有し、災害時の避難支援がスムーズに行われることを目指す制度である。個人情報を守り、管理・更新している。今後広くお知らせし、同意者数を増やしていく。

災害時に受けられる支援

- 避難連絡・避難誘導に関する支援
- 安否確認・救助活動に活用



石名 国光

Q バイパス（横町・田町）を活用したまちづくりを市長に伺う

A 横町・田町では、地域住民がまちの将来を真剣に考え、良い街並みを次世代に繋いでいく意識で景観まちづくりに取り組んでいる。これから景観に対する意識の高まりが期待され、住民と景観まちづくりに取り組んでいく。

Q バイパスの名称を市民から親しまれるネーミングにすべきと思うが、執行部の考えを伺う

A 道路の愛称については、愛称が示す内容や由来あるいは命名に当たり市民が関わることで、愛称の表示板設置などで地域の魅力を発信する上で有効である。

Q 北側石垣を覆う木の伐採で数百メートルに及ぶ壮大な石垣と田町西側空き地の有効活用について伺う

A 木の伐採で現れる壮大な石垣は、新たな魅力となり将来的には、追廻地区で石垣や外堀の眺望を楽しむ視点場や散策路を整備していく。整備する間外堀跡を活用し間近で見れるよう検討する。





柴原 隆夫

Q 図書館の閉館数が年間80日を

超えている。利用者は大変多い。民間でたくさんお客さんがあるのに、「これこれ」の整理や棚卸しがあるという理由で80日以上も長期閉館するところがあるでしょうか。民間は図書館以上に厳しい環境で営業をしている。民間企業ではお客さんを引き寄せるためならどんな努力も惜しまない。少しでも工夫して欲しい

Q

中央公民館は築52年が経過し大変老朽化している。長年こんなにお願ひしても、どうして叶えてあげることができないのでしょうか

A

「公共施設等総合管理計画」を踏まえ、今年度中に作成される個別計画の中で改築の時期や場所などの方向性を総合的に検討していく。

A

閉館日数だが、1日平均2千冊の貸出がある蔵書の点検と27万冊の所蔵を管理するためであり、近隣のコミネスやマイタウン白河も活用してほしい。



〈中央公民館〉

Q

健康づくりの取り組みについて

A

健康寿命の延伸を目標とし各種施策を推進している。健診の重要性から個人ごとに通知を行い無料クーポン券を送付して受診率向上を図っており、健康づくりや健診をポイント化するいきいき健康マイレージ事業を導入している。また、先進事例等も参考にし広い視点から健康づくりを推進していく。

Q

インフルエンザ対策周知と助成について

A

広報紙や保健センターだより、健康教室等で周知している。65歳以上の方に対し接種費用の助成をし、新たに受験を控える中学3年生にも開始した。動向を見ながら助成拡大を判断する。

Q

消防団員の少ない時間帯に対応する機能別団員導入について

A

団員の定年制を設けておらず再入団も可能なことから基本団員確保を目指しつつ、将来的に実情や意向を踏まえ判断していく。



高 畠 裕





深谷弘

Q

県内59市町村のうち32市町村で学校給食費への助成が行われている。白河市は今年度から多子世帯（18歳以下の3人以上子どもがいる世帯）の第3子から全額助成となったが、さらに助成の拡大を求めたい。必要となる財源を考えると、小中学校に児童生徒が在籍している世帯数・児童生徒数について何う

A

令和元年12月10日現在、児童生徒が1人2千30世帯・2千30人、2人1千89世帯・2千178人、3人以上185世帯・570人である。

Q

財源を試算するため小中学校の1人あたり年間給食費を5・2万円とし、助成対象者を設定すると必要財源が出てくる。（※例えば、2人目の児童生徒を半額助成するための財源は、1千89＋185＝1千274世帯に2・6万円を乗じ、約3千300万円となる）財源を算出し、できるところから助成の拡大をしてはどうか

A

他の事業との優先順位を踏まえ総合的に検討する。

Q

台風19号の影響により、あらためて水害への課題が浮き彫りとなった。

大雨時に排水が追いつかず溢れてしまった水路や側溝を今後、どのように整備・改修を進めていくのか何う



鈴木裕哉

A

道路側溝の改修については町内会等からの要望が多く、大雨時の冠水対策や水の滞留による悪臭などの生活環境の改善など、地域の安全安心の向上や快適な生活を送るための重要な事業と考えている。

今年7月の集中豪雨や台風19号により、道路の冠水や家屋の浸水があった地区においては、要望内容を精査の上、現地調査を実施し、緊急性及び必要性を総合的に勘案し、町内会等への説明を行いながら、順次改善を進めることとしている。

また、安全性を欠いた変形や腐食をした縞鋼板蓋のかかった側溝が数多くあることから、今後、それらの改修についても、計画的に進めていく考えである。

